

1 素材需給の動向

(1) 素材需要量

令和4年の素材需要量は2,595万4千 m^3 で、前年に比べ13万1千 m^3 (0.5%) 減少した。

これを需要部門別にみると、製材用は1,636万3千 m^3 で、前年に比べ28万7千 m^3 (1.7%)、木材チップ用は423万6千 m^3 で、同10万6千 m^3 (2.4%) それぞれ減少した。合板等用は535万5千 m^3 で前年に比べ26万2千 m^3 (5.1%) 増加した。

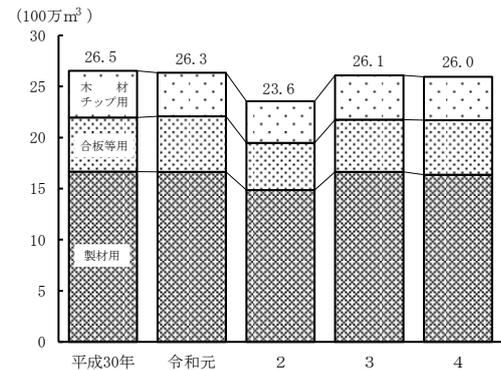
この結果、需要部門別の構成割合は、製材用が63.0%、合板等用が20.6%、木材チップ用が16.3%となった(表1、図1)。

表1 需要部門別素材需要量

区分	計	単位：千 m^3		
		製材用	合板等用	木材チップ用
令和3年	26,085	16,650	5,093	4,342
4	25,954	16,363	5,355	4,236
対前年比(%)	99.5	98.3	105.1	97.6
構成比(%)				
令和3年	100.0	63.8	19.5	16.6
4	100.0	63.0	20.6	16.3

注：1 素材需要量とは、製材工場、合単板工場及び木材チップ工場への素材の入荷量である。
2 数値及び構成比については、表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある(以下の図表において同じ。)

図1 素材需要量の推移



(2) 素材供給量

素材供給量のうち、国産材は2,208万2千 m^3 で、前年に比べ23万5千 m^3 (1.1%) 増加、輸入材は387万2千 m^3 で、同36万6千 m^3 (8.6%) 減少した。

この結果、素材供給量に占める国産材の割合は85.1%で、前年に比べ1.3ポイント増加した(表2、図2)。

図2 素材供給量及び国産材供給割合の推移

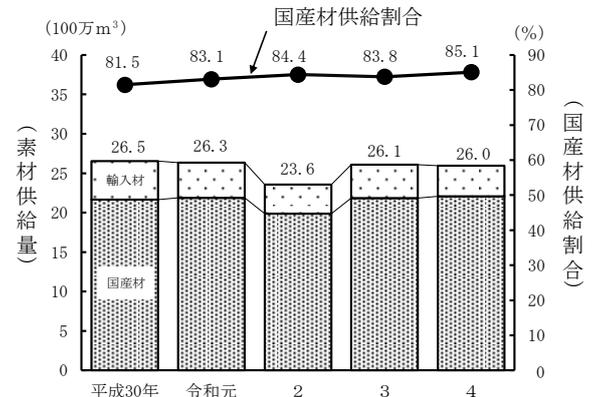


表2 需要部門別、材種別素材供給量

区分	計	国産材				輸入材					単位：千 m^3
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	南洋材	米材	北洋材	ニューズーランド材	その他	
令和3年											
計	26,085	21,847	20,088	1,759	4,238	49	3,446	213	359	171	
製材用	16,650	12,861	12,722	139	3,789	37	3,057	190	346	159	
合板等用	5,093	4,661	4,643	18	432	12	384	23	13	0	
木材チップ用	4,342	4,325	2,723	1,602	17	-	5	0	0	12	
令和4年											
計	25,954	22,082	20,386	1,696	3,872	54	3,229	182	303	104	
製材用	16,363	12,937	12,862	75	3,426	37	2,832	174	280	103	
合板等用	5,355	4,912	4,892	20	443	17	394	8	23	1	
木材チップ用	4,236	4,233	2,632	1,601	3	-	3	-	0	-	
対前年比(%)											
計	99.5	101.1	101.5	96.4	91.4	110.2	93.7	85.4	84.4	60.8	
製材用	98.3	100.6	101.1	54.0	90.4	100.0	92.6	91.6	80.9	64.8	
合板等用	105.1	105.4	105.4	111.1	102.5	141.7	102.6	34.8	176.9	nc	
木材チップ用	97.6	97.9	96.7	99.9	17.6	nc	60.0	nc	nc	-	
構成比(%)											
計	100.0	85.1	78.6	6.5	14.9	0.2	12.4	0.7	1.2	0.4	
製材用	100.0	79.1	78.6	0.5	20.9	0.2	17.3	1.1	1.7	0.6	
合板等用	100.0	91.7	91.4	0.4	8.3	0.3	7.4	0.1	0.4	0.0	
木材チップ用	100.0	99.9	62.1	37.8	0.1	-	0.1	-	0.0	-	

注：本調査においては、製材工場、合単板工場及び木材チップ工場への素材の入荷量をもって素材供給量としている。

ア 国産材供給量

国産材供給量（全国計のみ素材生産量と等しい。）を針葉樹、広葉樹別にみると、針葉樹は2,038万6千m³で、前年に比べ29万8千m³（1.5%）増加した。

これを樹種別にみると、素材供給量の6割弱を占めるすぎは1,323万8千m³で、前年に比べ32万1千m³（2.5%）、えぞまつ・とどまちは143万m³で、同23万4千m³（19.6%）、あかまつ・くろまちは55万9千m³で、同3万m³（5.7%）それぞれ増加した。ひのきは297万1千m³で、同10万8千m³（3.5%）、からまちは193万2千m³で、同5万5千m³（2.8%）それぞれ減少した。

また、広葉樹は169万6千m³で、前年に比べ6万3千m³（3.6%）減少した（表3、図3）。

図3 樹種別素材供給量の推移

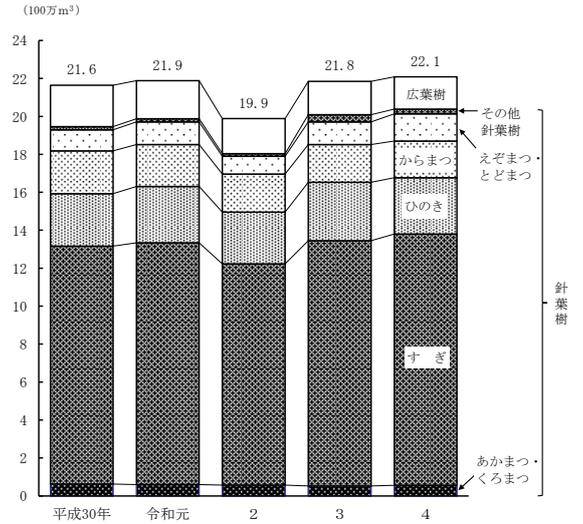


表3 需要部門別、樹種別素材供給量

区分	計	針葉樹							広葉樹
		小計	あかまつ・くろまつ	すぎ	ひのき	からまちは	えぞまつ・とどまちは	その他	
令和3年									
計	21,847	20,088	529	12,917	3,079	1,987	1,196	380	1,759
製材用	12,861	12,722	100	8,630	2,275	962	714	41	139
合板等用	4,661	4,643	195	2,822	552	741	303	30	18
木材チップ [※] 用	4,325	2,723	234	1,465	252	284	179	309	1,602
令和4年									
計	22,082	20,386	559	13,238	2,971	1,932	1,430	256	1,696
製材用	12,937	12,862	85	8,900	2,100	947	801	29	75
合板等用	4,912	4,892	228	2,895	614	742	375	38	20
木材チップ [※] 用	4,233	2,632	246	1,443	257	243	254	189	1,601
対前年比(%)									
計	101.1	101.5	105.7	102.5	96.5	97.2	119.6	67.4	96.4
製材用	100.6	101.1	85.0	103.1	92.3	98.4	112.2	70.7	54.0
合板等用	105.4	105.4	116.9	102.6	111.2	100.1	123.8	126.7	111.1
木材チップ [※] 用	97.9	96.7	105.1	98.5	102.0	85.6	141.9	61.2	99.9
構成比(%)									
計	100.0	92.3	2.5	59.9	13.5	8.7	6.5	1.2	7.7
製材用	100.0	99.4	0.7	68.8	16.2	7.3	6.2	0.2	0.6
合板等用	100.0	99.6	4.6	58.9	12.5	15.1	7.6	0.8	0.4
木材チップ [※] 用	100.0	62.2	5.8	34.1	6.1	5.7	6.0	4.5	37.8

イ 輸入材供給量

輸入材供給量を産地材別にみると、輸入材の8割強を占める米材は322万9千 m^3 で、前年に比べ21万7千 m^3 (6.3%)、ニュージーランド材は30万3千 m^3 で、同5万6千 m^3 (15.6%)、北洋材は18万2千 m^3 で、同3万1千 m^3 (14.6%)それぞれ減少し、南洋材は5万4千 m^3 で、同5千 m^3 (10.2%)増加した(表4、図4)。

また、製材用素材の輸入材のうち半製品入荷量は25万8千 m^3 で、前年に比べ11千6千 m^3 (31.0%)減少した(表5)。

図4 輸入材供給量の推移

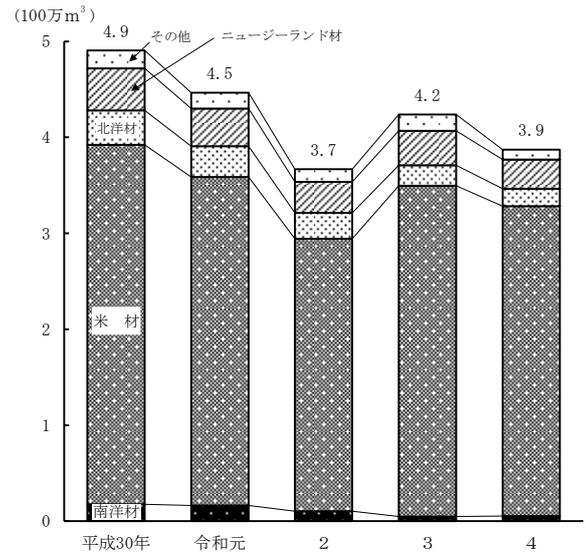


表4 輸入材供給量

区 分	単位: 千 m^3					
	計	南洋材	米 材	北洋材	ニュージーランド材	その他
令和3年	4,238	49	3,446	213	359	171
4	3,872	54	3,229	182	303	104
対前年比 (%)	91.4	110.2	93.7	85.4	84.4	60.8
構成比 (%)						
令和3年	100.0	1.2	81.3	5.0	8.5	4.0
4	100.0	1.4	83.4	4.7	7.8	2.7

表5 製材用素材の輸入材のうち半製品入荷量

区 分	単位: 千 m^3					
	計	南洋材	米 材	北洋材	ニュージーランド材	その他
令和3年	374	2	181	116	9	66
4	258	4	36	138	10	70
対前年比 (%)	69.0	200.0	19.9	119.0	111.1	106.1
構成比 (%)						
令和3年	100.0	0.5	48.4	31.0	2.4	17.6
4	100.0	1.6	14.0	53.5	3.9	27.1

2 木材産業の動向

(1) 製材

ア 製材工場数及び製材用動力の出力数

製材工場数は3,804工場で、前年に比べ144工場(3.6%)減少した。

これを製材用動力の出力階層別にみると、7.5~75.0kW未満の階層で増加し、それ以外の階層では減少した。

製材用動力の総出力数は63万4,743kWで、前年に比べ10万2,890kW(13.9%)減少した。

1工場当たりの出力数は166.9kWで、前年に比べ19.9kW(10.7%)減少した(表6、図5)。

表6 製材工場数及び製材用動力の出力数(各年12月31日現在)

区分	単位	令和3年	4	対前年比	構成比
工場数計	工場	3,948	3,804	96.4	100.0
7.5~75.0kW未満	〃	2,100	2,183	104.0	57.4
75.0~300.0	〃	1,322	1,180	89.3	31.0
300.0kW以上	〃	526	441	83.8	11.6
うち1,000.0kW以上	〃	93	80	86.0	2.1
総出力数	kW	737,633	634,743	86.1	-
1工場当たり出力数	〃	186.8	166.9	89.3	-

イ 製材用素材消費量

製材用素材消費量は1,601万2千m³で、前年に比べ52万3千m³(3.2%)減少した。

1工場当たりの素材消費量は4,209m³で、前年に比べ21m³(0.5%)増加した(表7、図6)。

表7 製材用動力の出力階層別素材消費量

区分	単位	令和3年	4	対前年比	構成比
計	千m ³	16,535	16,012	96.8	100.0
7.5~75.0kW未満	〃	858	673	78.4	4.2
75.0~300.0	〃	3,162	2,906	91.9	18.1
300.0kW以上	〃	12,515	12,433	99.3	77.6
うち1,000.0kW以上	〃	7,190	7,656	106.5	47.8
1工場当たり消費量	m ³	4,188	4,209	100.5	-

図5 製材工場の出力階層別構成割合(令和4年)

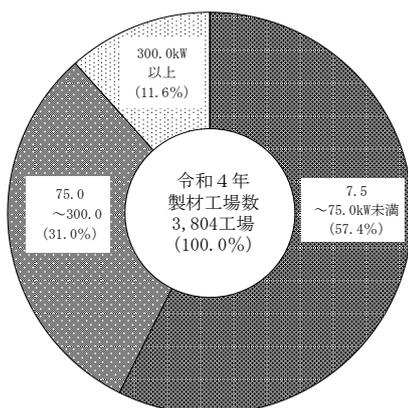
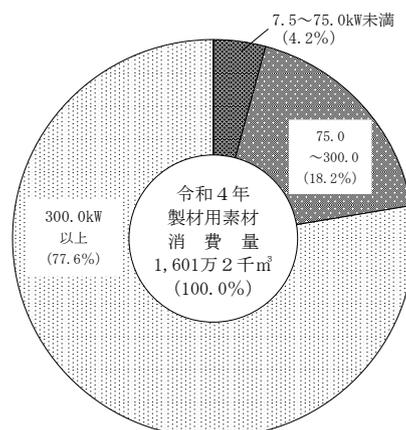


図6 製材用素材消費量の出力階層別構成割合(令和4年)



ウ 製材用素材入荷量

(ア) 製材用素材入荷量は、1,636万3千³m³で、前年に比べ28万7千³m³（1.7%）減少した。

これを国産材、輸入材別にみると、国産材の入荷量は1,293万7千³m³で、前年に比べ7万6千³m³（0.6%）増加し、輸入材の入荷量は342万6千³m³で、同36万3千³m³（9.6%）減少した。

この結果、製材用素材入荷量に占める国産材の割合は79.1%で、前年に比べ1.9ポイント上昇した（表8、図7）。

図7 製材用素材入荷量及び国産材割合の推移

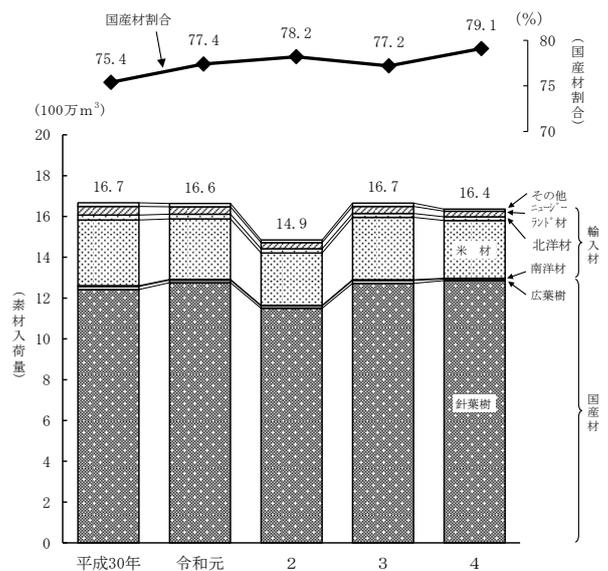


表8 材種別製材用素材入荷量

年次	計	国産材			輸入材					
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	南洋材	米材	北洋材	ニューズランド材	その他
令和3年	16,650	12,861	12,722	139	3,789	37	3,057	190	346	159
4	16,363	12,937	12,862	75	3,426	37	2,832	174	280	103
対前年比 (%)	98.3	100.6	101.1	54.0	90.4	100.0	92.6	91.6	80.9	64.8
構成比 (%)										
令和3年	100.0	77.2	76.4	0.8	22.8	0.2	18.4	1.1	2.1	1.0
4	100.0	79.1	78.6	0.5	20.9	0.2	17.3	1.1	1.7	0.6

(イ) 素材の入荷があった製材工場は3,778工場で、前年に比べ114工場（2.9%）減少した。

これを入荷類型別にみると、国産材のみは3,054工場で、前年に比べ84工場（2.7%）、国産材と輸入材は560工場、同47工場（7.7%）それぞれ減少、輸入材のみは164工場、同17工場（11.6%）増加した。

入荷量で見ると、国産材のみは1,229万2千³m³で、前年に比べ54万8千³m³（4.7%）増加し、国産材と輸入材は234万3千³m³で、同77万9千³m³（25.0%）、輸入材のみは172万8千³m³で、同5万6千³m³（3.1%）それぞれ減少した（表9）。

表9 製材用動力の入荷類型別製材工場数及び入荷量

年次	計		国産材のみ		国産材と輸入材		輸入材のみ	
	工場数	入荷量	工場数	入荷量	工場数	入荷量	工場数	入荷量
令和3年	3,892	16,650	3,138	11,744	607	3,122	147	1,784
4	3,778	16,363	3,054	12,292	560	2,343	164	1,728
対前年比 (%)	97.1	98.3	97.3	104.7	92.3	75.0	111.6	96.9
構成比 (%)								
令和3年	100.0	100.0	80.6	70.5	15.6	18.8	3.8	10.7
4	100.0	100.0	80.8	75.1	14.8	14.3	4.3	10.6

注：工場数は、製材用素材の入荷のあった工場数である。

エ 製材品出荷量

製材品出荷量は 860 万 m³ で、前年に比べ 49 万 1 千 m³ (5.4%) 減少した。

これを用途別にみると、8 割を占める建築用材は 696 万 1 千 m³ で、前年に比べ 31 万 6 千 m³ (4.3%)、土木建設用材は 37 万 5 千 m³ で、同 3 万 1 千 m³ (7.6%)、木箱仕組板・こん包用材は 103 万 m³ で、同 11 万 6 千 m³ (10.1%)、家具建具用材は 5 万 m³ で同 3 万 4 千 m³ (40.5%) それぞれ減少した。

また、人工乾燥材出荷量は 410 万 m³ で、前年に比べ 8 万 7 千 m³ (2.1%) 減少した。

製材品出荷量に占める人工乾燥材出荷量の割合は 47.7% で、前年に比べ 1.6 ポイント上昇した (表 10、図 8、図 9)。

図 8 用途別製材品出荷量の推移

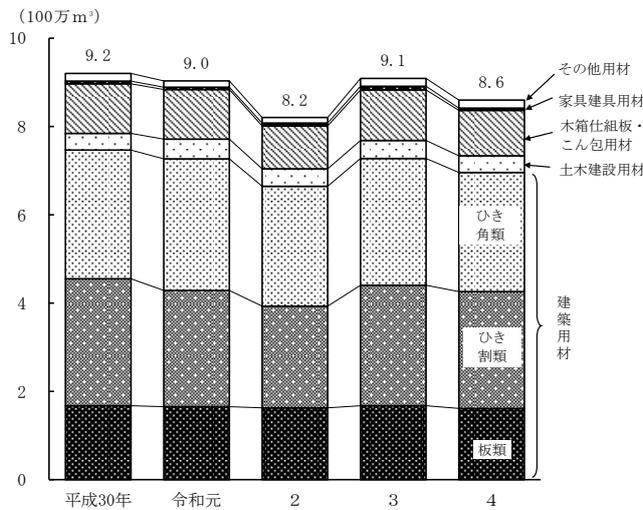


図 9 人工乾燥材出荷量及び製材品出荷量に占める人工乾燥材出荷量の割合の推移

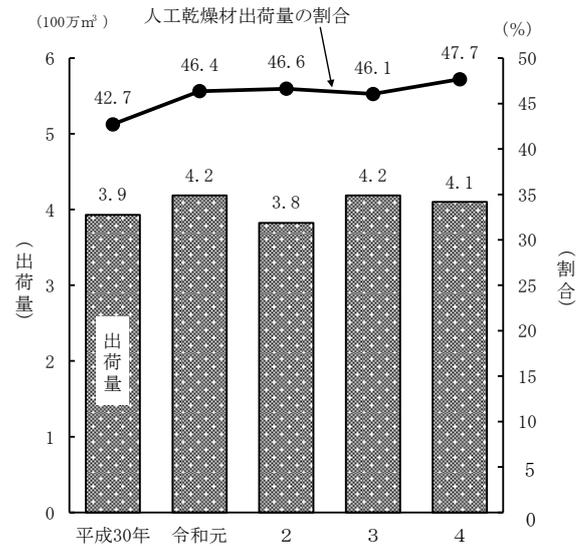


表 10 用途別製材品出荷量

年次	計		建築用材				土木建設用材	木箱仕組板・こん包用材	家具建具用材	その他用材
	人工乾燥材		小計	板類	ひき割類	ひき角類				
令和3年	9,091	4,187	7,277	1,673	2,731	2,873	406	1,146	84	178
4	8,600	4,100	6,961	1,615	2,647	2,699	375	1,030	50	184
対前年比 (%)	94.6	97.9	95.7	96.5	96.9	93.9	92.4	89.9	59.5	103.4
構成比 (%)										
令和3年	100.0	46.1	80.0	18.4	30.0	31.6	4.5	12.6	0.9	2.0
4	100.0	47.7	80.9	18.8	30.8	31.4	4.4	12.0	0.6	2.1

単位：千 m³

(2) 合単板及びLVL

ア 合単板工場数

合単板工場数は155工場で、前年に比べ3工場（1.9%）減少した。

これを工場類型別にみると、「単板のみ」を生産している工場は前年に比べ3工場（17.6%）増加し、「特殊合板のみ」を生産している工場は同6工場（5.6%）減少した。「普通合板のみ」を生産している工場及び「普通合板と特殊合板」を生産している工場は前年と比べそれぞれ同数であった（表11）。

表11 工場類型別合単板工場数（各年12月31日現在）

単位：工場					
区分	計	単板のみ	普通合板のみ	普通合板と特殊合板	特殊合板のみ
令和3年	158	17	30	3	108
4	155	20	30	3	102
対前年比（%）	98.1	117.6	100.0	100.0	94.4
構成比（%）					
令和3年	100.0	10.8	19.0	1.9	68.4
4	100.0	12.9	19.4	1.9	65.8

イ 単板製造用素材入荷量

単板製造用素材の入荷量は535万5千m³で、前年に比べ26万2千m³（5.1%）増加した。

これを国産材、輸入材別にみると、国産材は491万2千m³で、前年に比べ25万1千m³（5.4%）、輸入材は44万3千m³で同1千1千m³（2.5%）それぞれ増加した。

この結果、単板製材用素材入荷量に占める国産材の割合は91.7%となり、前年に比べ0.2ポイント上昇した（表12、図10）。

図10 単板製造用素材入荷量及び国産材割合の推移

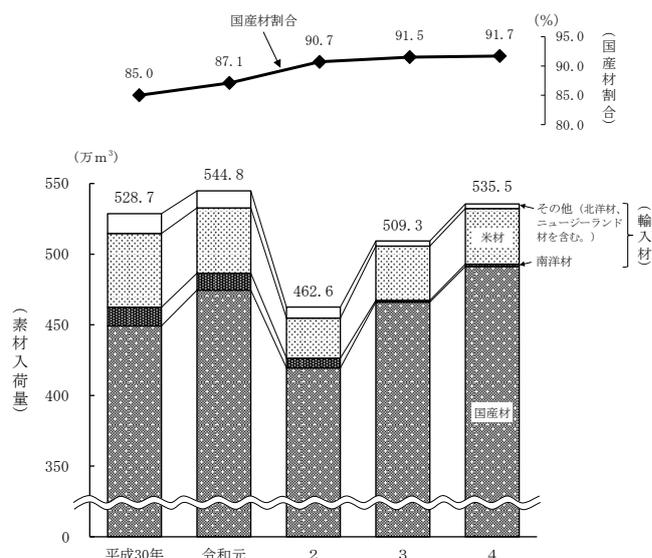


表12 材種別単板製造用素材入荷量

年次	計	単位：千m ³										
		国産材			輸入材							
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	針葉樹	南洋材	米材	北洋材	ニュージーランド材	その他	
令和3年	5,093	4,661	4,643	18	432	247	12	384	23	13	0	
4	5,355	4,912	4,892	20	443	361	17	394	8	23	1	
対前年比（%）	105.1	105.4	105.4	111.1	102.5	146.2	141.7	102.6	34.8	176.9	nc	
構成比（%）												
令和3年	100.0	91.5	91.2	0.4	8.5	4.8	0.2	7.5	0.5	0.3	0.0	
4	100.0	91.7	91.4	0.4	8.3	6.7	0.3	7.4	0.2	0.4	0.0	

注：本調査においては、単板製造用素材入荷量は合板等用（合板用及びLVL用）の素材需要量（素材供給量）と一致する。

ウ 単板消費量

単板消費量は 397 万 9 千 m³ で、前年に比べ 12 万 2 千 m³ (3.2%) 増加した。

これを用途別にみると、合板用は 362 万 m³ で、前年に比べ 24 万 2 千 m³ (7.2%) 増加し、L V L 用は 35 万 9 千 m³ で、同 12 万 m³ (25.1%) 減少した (表 13)。

表 13 単板消費量

単位：千 m ³			
区 分	計	合板用	L V L 用
令和 3 年	3,857	3,378	479
4	3,979	3,620	359
対前年比 (%)	103.2	107.2	74.9
構 成 比 (%)			
令和 3 年	100.0	87.6	12.4
4	100.0	91.0	9.0

エ 普通合板生産量

普通合板生産量は 305 万 9 千 m³ で、前年に比べ 11 万 3 千 m³ (3.6%) 減少した。

このうち、針葉樹合板生産量は 291 万 9 千 m³ で、前年に比べ 16 万 8 千 m³ (5.4%) 減少した。

また、厚さ別にみると、「6 mm 未満」は 10 万 5 千 m³ で、前年に比べ 6 万 7 千 m³ (176.3%)、「6～12mm」は 53 万 2 千 m³ で、同 1 千 m³ (0.2%) それぞれ増加し、「12～24mm」は 127 万 9 千 m³ で、同 12 万 m³ (8.6%)、「24 mm 以上」は 114 万 3 千 m³ で、同 6 万 1 千 m³ (5.1%) それぞれ減少した (表 14、図 11)。

図 11 普通合板生産量及び針葉樹合板割合の推移

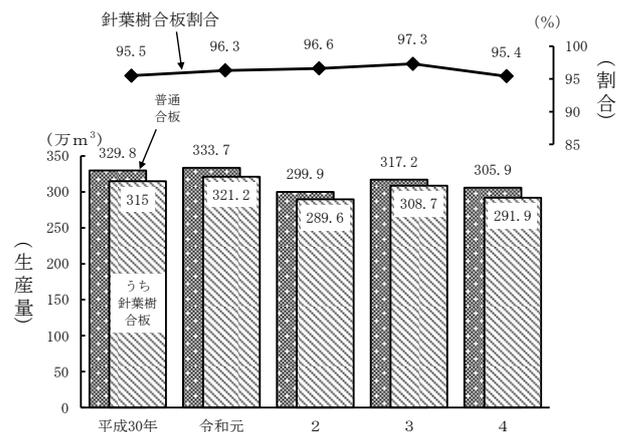


表 14 普通合板生産量

区 分	令和 3 年	4	対前年比	構成比
	千 m ³	千 m ³	%	%
普通合板生産量	3,172	3,059	96.4	100.0
6 mm 未 満	38	105	276.3	3.4
6 ～ 12	531	532	100.2	17.4
12 ～ 24	1,399	1,279	91.4	41.8
24 mm 以 上	1,204	1,143	94.9	37.4
うち針葉樹合板	3,087	2,919	94.6	95.4
うち構造用合板	2,748	2,580	93.9	84.3

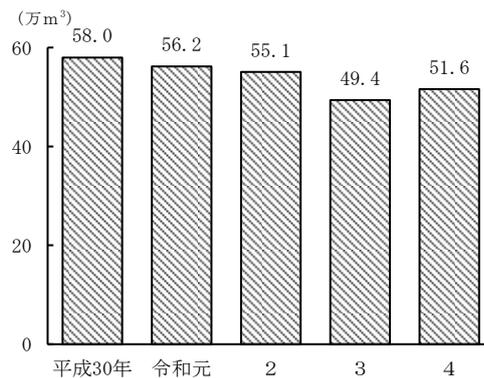
オ 特殊合板生産量

特殊合板生産量は51万6千 m^3 で、前年に比べ2万2千 m^3 （4.5%）増加した（表15、図12）。

表15 特殊合板生産量

区 分	令和3年	4	対前年比
	千 m^3	千 m^3	%
特殊合板生産量	494	516	104.5

図12 特殊合板生産量の推移



カ LVL工場数

LVL工場数は12工場で、前年に比べ3工場（20.0%）減少した（表16）。

表16 LVL工場数（各年12月31日現在）

区 分	令和3年	4	対前年比
	工場	工場	%
LVL工場	15	12	80.0

キ LVL生産量

LVL生産量は25万 m^3 で、前年に比べ8万7千 m^3 （25.8%）減少した。

これを用途別にみると、構造用が15万5千 m^3 で、前年に比べ6万8千 m^3 （30.5%）、その他が9万5千 m^3 で、同1万9千 m^3 （16.7%）それぞれ減少した（表17）。

表17 LVL生産量

単位：千 m^3			
区 分	計	構造用	その他
令和3年	337	223	114
4	250	155	95
対前年比 (%)	74.2	69.5	83.3
構 成 比 (%)			
令和3年	100.0	66.2	33.8
4	100.0	62.0	38.0

(3) 木材チップ

ア 木材チップ工場数

木材チップ工場数は1,110工場で、前年に比べ28工場（2.6%）増加した。

これを専門・兼営区分別にみると、「木材チップ専門工場」は320工場で、前年に比べ8工場（2.6%）、「製材又は合単板工場等との兼営工場」は790工場で、同20工場（2.6%）それぞれ増加した（表18）。

表18 専門・兼営区分別木材チップ工場数
（各年12月31日現在）

年次	計	単位：工場	
		木材チップ 専門工場	製材又は合単板 工場等との兼営工場
令和3年	1,082	312	770
4	1,110	320	790
対前年比（%）	102.6	102.6	102.6
構成比（%）			
令和3年	100.0	28.8	71.2
4	100.0	28.8	71.2

イ 木材チップ用素材入荷量

木材チップ用素材入荷量は423万6千m³で、前年に比べ10万6千m³（2.4%）減少した。

これを国産材、輸入材別にみると、大部分を占める国産材は423万3千m³で、前年に比べ9万2千m³（2.1%）減少した（表19、図13）。

図13 木材チップ用素材入荷量の推移

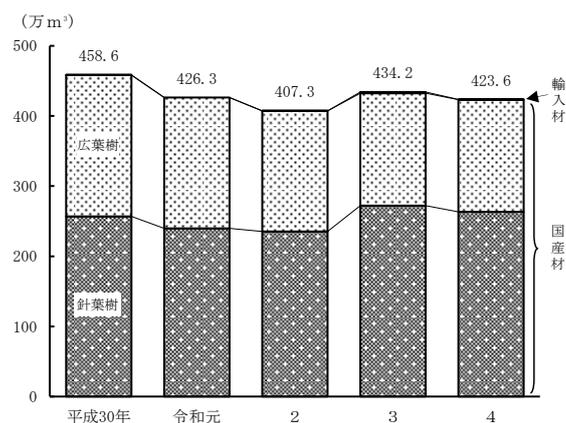


表19 材種別木材チップ用素材入荷量

年次	計	単位：千m ³								
		国産材			輸入材					
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	南洋材	米材	北洋材	ニューシ- ラント材	その他
令和3年	4,342	4,325	2,723	1,602	17	-	5	0	0	12
4	4,236	4,233	2,632	1,601	3	-	3	-	0	-
対前年比（%）	97.6	97.9	96.7	99.9	17.6	nc	60.0	nc	nc	-
構成比（%）										
令和3年	100.0	99.6	62.7	36.9	0.4	-	0.1	0.0	0.0	0.3
4	100.0	99.9	62.1	37.8	0.1	-	0.1	-	0.0	-

注：本調査においては、木材チップ製造用素材入荷量は木材チップ用の素材需要量（素材供給量）と一致する。

ウ 木材チップ生産量

木材チップ生産量は527万8千tで、前年に比べ79万2千t（13.0%）減少した。

これを原材料別にみると、素材（原木）は237万8千tで、前年に比べ28万3千t（10.6%）、工場残材は215万6千tで、同46万7千t（17.8%）、林地残材は4万6千tで、同2万9千t（38.7%）、解体材・廃材は69万8千tで、同1万3千t（1.8%）それぞれ減少した。

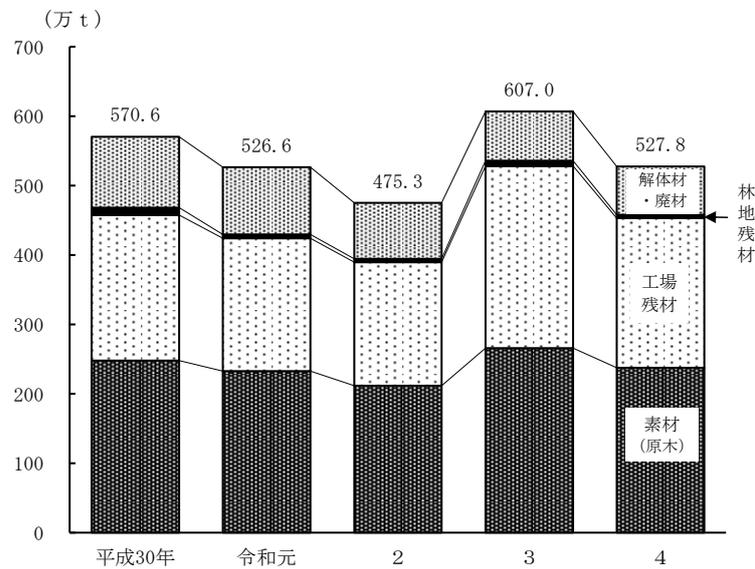
また、針葉樹・広葉樹別にみると、針葉樹は352万6千tで、前年に比べ51万9千t（12.8%）、広葉樹は105万4千tで、同26万t（19.8%）それぞれ減少した（表20、図14）。

表20 木材チップ生産量

区 分	令和3年	4	対前年比	構成比
	千 t	千 t	%	%
木材チップ生産量	6,070	5,278	87.0	100.0
原材料別				
素材（原木）	2,661	2,378	89.4	45.1
工場残材	2,623	2,156	82.2	40.8
林地残材	75	46	61.3	0.9
解体材・廃材	711	698	98.2	13.2
針葉樹・広葉樹別				
針葉樹	4,045	3,526	87.2	-
広葉樹	1,314	1,054	80.2	-

注：針葉樹・広葉樹別には解体材・廃材を含んでいない。

図14 原材料別木材チップ生産量の推移



(4) 集成材及びCLT

ア 集成材及びCLT工場数

集成材工場数は140工場で、前年に比べ8工場(6.1%)増加した。
CLT工場数は9工場で、前年に比べ2工場(18.2%)減少した(表21)。

表21 集成材及びCLT工場数
(各年12月31日現在)

区 分	集成材工場	CLT工場
令和3年	132	11
4	140	9
対前年比(%)	106.1	81.8

イ ラミナ消費量

ラミナ消費量は252万9千 m^3 で、前年に比べ11万8千 m^3 (4.5%)減少した。
これを用途別にみると、集成材用は250万3千 m^3 で、前年に比べ12万2千 m^3 (4.6%)減少し、CLT用は2万6千 m^3 で、同4千 m^3 (18.2%)増加した(表22)。

表22 ラミナ消費量

区 分	計	集成材用	CLT用
令和3年	2,647	2,625	22
4	2,529	2,503	26
対前年比(%)	95.5	95.4	118.2
構 成 比 (%)			
令和3年	100.0	99.2	0.8
4	100.0	99.0	1.0

ウ 集成材生産量

集成材生産量は165万9千 m^3 で、前年に比べ32万3千 m^3 (16.3%)減少した。
これを用途別にみると、構造用が157万7千 m^3 で、前年に比べ31万9千 m^3 (16.8%)減少した(表23)。

表23 集成材生産量

区 分	計	構造用			その他	
		小計	大断面	中断面		小断面
令和3年	1,982	1,896	18	894	984	86
4	1,659	1,577	12	637	928	82
対前年比(%)	83.7	83.2	66.7	71.3	94.3	95.3
構 成 比 (%)						
令和3年	100.0	95.7	0.9	45.1	49.6	4.3
4	100.0	95.1	0.7	38.4	55.9	4.9

エ CLT生産量

CLT生産量は1万5千 m^3 で、前年並みであった。

これを用途別にみると構造用が1万4千 m^3 で、前年並みであった。(表24)。

表24 CLT生産量

単位：千 m^3

区 分	計	構造用	その他
令和3年	15	14	1
4	15	14	1
対前年比 (%)	100.0	100.0	100.0
構 成 比 (%)			
令和3年	100.0	93.3	6.7
4	100.0	93.3	6.7